



食事情



インド チェンナイ

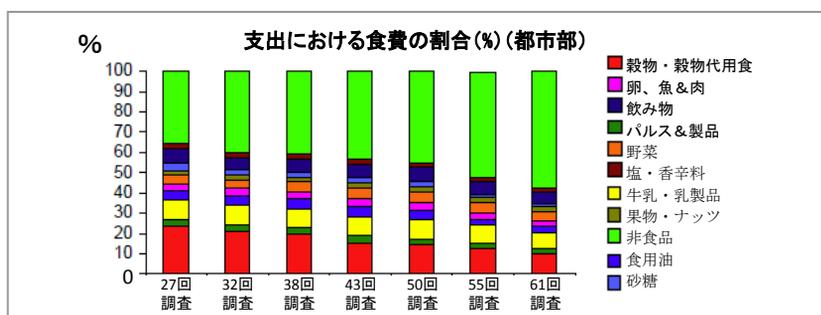
BOP層実態調査レポート

インドの食事は非常に多様で、入手できる食材の種類や選択、気候条件、社会的・文化的嗜好により地域ごとに大きく異なっている。

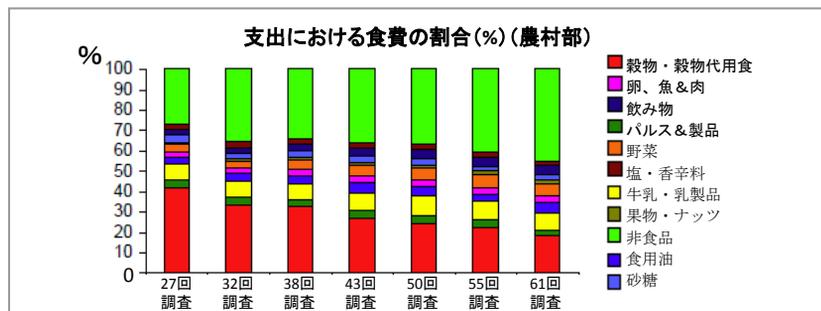
歴史的に中産階級以上の家庭の食事は、果物、野菜、穀物、卵、鶏肉、時には肉で構成される。しかし、国際化と所得の増加に伴い加工食品が使われるようになってきている。こうした変化は、都市化や可処分所得が上昇しているところでより急速に進んでいる。

食費の推移

全国標本調査局(NSSO)の食品および非食品の消費支出に関する調査データは次の通りである。



出所:全国標本調査局(NSSO)



出所:全国標本調査局(NSSO)

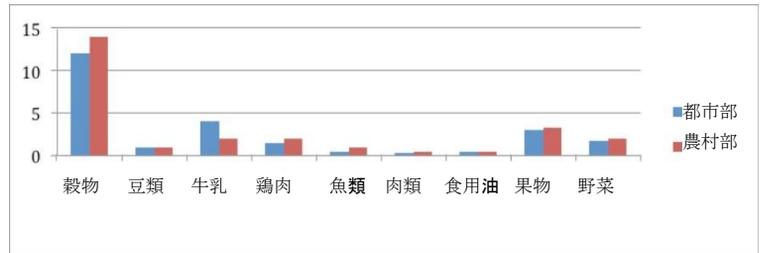


所得に占める食費の割合は27回調査(1972~1973年)から61回調査(2004~2005年)の間に、農村部では73%から55%に、都市部では64%から42%に低下している。所得に占める食費の割合は低下したものの、絶対額は増加している。

都市と農村における食品消費の違い

穀物が食品に占める割合は、都市部と農村部の両方で最も高い。豆類は高価格のため割合が低い。牛乳、果物、野菜、動物性食品の消費は農村部、都市部ともに比較的少ないが、都市部より農村部の方が少しだけ消費が多いのは、おそらく生産者により自己消費されることや、生鮮食品が入手しやすいこと、加工食品が普及していないことによる。

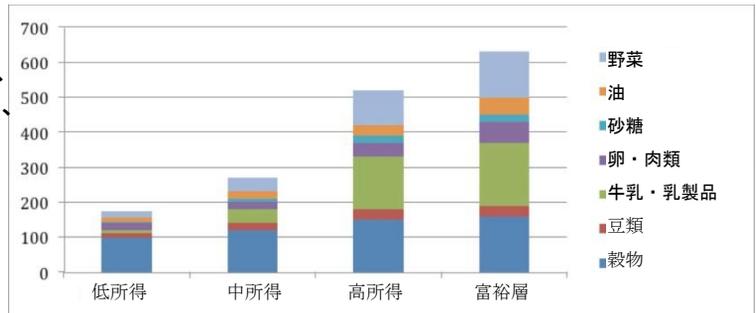
都市と農村の食品消費の違い(kg/月)



出所：全国標本調査局 (NSSO 2004-05)

消費の違いは、農村部と都市部の世帯の間だけでなく、農村部と都市部のそれぞれの内部にもある。

都市部の所得階層別食費(ルピー)



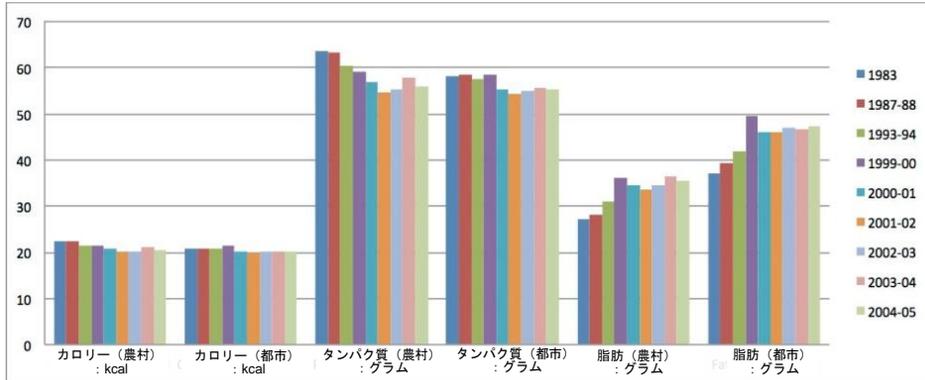
出所：全国標本調査局 (NSSO 2001)

カロリー消費と栄養の推移

農村部でも都市部でも、1人当たりのカロリー消費が1983年から2004/2005年の間に減少している。同時期に、1人当たりのタンパク質消費量も、農村部および都市部とも減少している。しかし、1人当たりの脂肪消費量は、農村部世帯、都市部世帯とも1人当たりの支出額の増加に伴い増加している。



都市と農村の食品消費の違い(kg/月)



出所: Food and Nutrition in India: Facts and Interpretations

インドは貧困ラインをカロリー基準によって定めている。貧困ラインは、1人当たり平均カロリー消費量が農村部世帯で2,400カロリー、都市部で2,100カロリーとしていた。現在の状況は、農村部・都市部とも大部分の世帯はカロリー摂取が不十分となっている。この低下の原因には、新たな食品の登場や食習慣の変化、ジャンクフードの栄養価を把握していないことなどがある。

加工食品とインスタント食品

都市部における加工食品およびインスタント食品の消費調査から、国際化や所得の上昇に伴い、消費が増加していることが分かる。飲料、ビスケット、加工食品、塩味スナック、その他購入食品の消費は、1日1人当たり100~427gで、1日で1,000 kcalにもなる場合があり、高所得層では必要なカロリー数の30~40%に相当する。

国際化は中・高所得消費者を主なターゲットにする Domino's や McDonald's、PEPSI などの参入を促進している。同様に、有名チェーンに代わって数多くの無名の店が低所得層を対象に市場に参入している。

栄養状態

食事のバランスが悪いと貧富に関わらず栄養問題が発生する。バランスの悪い食事は、栄養不足や成長障害を引き起こすことも多い。調査では、都市部の子どもの約15.4%が重度の発育不良で、軽度の子どもは35.6%、重度の体重不足が11.6%、軽度の不足が38.4%となっている。

裕福な階層では肥満が主な健康問題で、特に都市部では、ほとんど身体を動かさない生活や、砂糖や脂肪、加工食品が多い食事への移行が肥満を引き起こしている。



訪問結果



Palanisamy氏

年齢: 34歳
場所: チェンナイ

Palanisamy氏は、物価の上昇と家族に十分な食品を買うことができるかを懸念している。最近の物価上昇により、同氏の家では乳製品や鶏肉、肉類などの食品を減らしている。最近の食事は、米やパン、野菜だけが多い。人々が常に果物や野菜を買えるよう、価格は管理されるべきだと思っている。



Srinivas氏

年齢: 32歳
場所: チェンナイ

Srinivas氏は、最近では食品の選択肢が増えたと感じている。以前は家族での外食は月に一度だけだったが、現在はしばしば外食をしている。ファストフードが大好きだが、その弊害について十分には知らない。手に入る種類が増えたことを喜んでおり、たいいていの食品は買うことができる。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。